

故小田芳雄さんに叙位

平成22年11月23日に御逝去された元本川根町公立学校長の小田芳雄さんに、位階（従五位）が授与され2月、位記がご家族に伝達されました。小田さんは、昭和8年3月から昭和47年3月まで教職員として、正しい教育観と旺盛な自己研鑽力、堅実な実践力を持ち、教育の充実・発展を目指し、地域に根ざした教育、子ども一人一人に応じた教育に全精力を傾けました。また指導・助言などを通して、優秀な教員の育成、教育振興に多大な功績を残しました。

教育一筋に人生をまっとうされ、その功績が認められての受章となりました。



大切に伝承される地域の誇り

県無形民俗文化財指定「梅津神楽」奉納

「梅津神楽（接唄）」は1月15日、接唄地区公民館で奉納されました。この神楽は、今から約550年前から伝わる神事。接唄地区の「こだま石神社」と「若宮神社」が交互に執り行います（今年は若宮神社）。

夕方4時から始まった神楽奉納。会場には大勢の観客が詰めかけました。子どもから大人まで、会場一体となった奉納は深夜12時半まで続けられ、舞が一つ終わるたびに、来場者から大きな拍手が送られました。



激しく、ときに笑いも誘う金丸の舞

静岡大学の学生が本町で研究した成果を地元に向けて発表する「フィールドワーク現地発表会」は1月28日、千頭東区会館で開かれました。人、社会と触れながら、現実世界から物事を学ぶことを目的とした授業の一環で、静岡大学人文学部社会学科文化人類学コースが毎年実施しています。本年度の実習は、6月4日から10日までの7日間。千頭東区、同西区、寺馬区と周辺地域で、学生11人などが①インタビュー②観察③映像や音声の記録④文献収集—などによって調査を進め、1冊の研究報告書にまとめました。

発表会会場には、地域住民ら約50人が詰めかけました。学生たちは、それぞれの研究テーマについて独自に調べ上げた成果を発表し、来場者はその一つ一つの発表を興味深そうに聞き入っていました。

静大生が千頭地区を研究・発表

会場には地域住民約50人が詰めかけた



静大生の研究発表は、来場した地域住民の心に「新鮮な刺激」を与えました

Topics

川根本町のまちの話題



昨年からはまった海外の学生との学校交流。

川根高校に上海から訪問 国境を越えて生徒たちが交流

今回、中国から来校したのは上海重点中学校の生徒32人。

1月25日、午後1時前に到着した上海重点中学の生徒たちは、体育館で開催された歓迎会に臨みました。



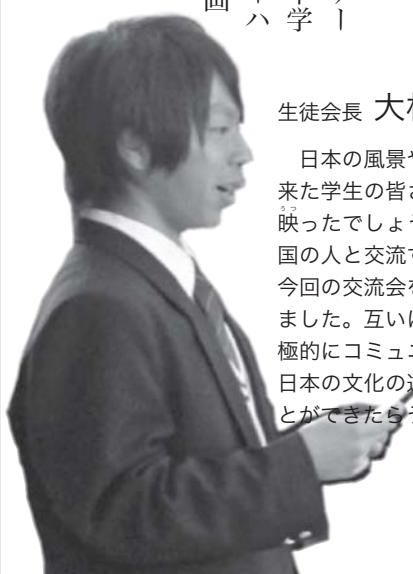
昨年度から始まった川根高校と中国・上海重点中学校（以下重点中学）との交流。今年は1月25日に交流会が開かれました。

来校したのは重点中学の生徒32人。前日、浜名湖館山寺に宿泊した一行は、午後1時に川根高校に到着し、吹奏楽部の演奏と全校生徒の拍手による歓迎を受けながら体育館に入場しました。

午後1時から開かれた歓迎会では、河原崎全校長が「上海は万博の成功もあって、明るい大都市というイメージがあります。短い時間ですが、日本の高校生活に触れ、楽しみながら交流してください」と歓迎の言葉を述べました。

ステージには郷土芸能部が登場し、勇壮な秩父屋台囃子や赤石山嶺龍神太鼓などの曲を披露。館内に響く大きな音を丸くしながら拍手を送りました。

歓迎会の後はコミュニケーションの時間。重点中学生と川高1年生がセミナーハウスに移動し、生徒が企画したゲームに興じました。



生徒会長 大村洸太さん（2年）

日本の風景や蒸気機関車は上海から来た学生の皆さんの目に、どのように映ったのでしょうか。私たちは普段、外国の人と交流する機会が少ないので、今回の交流会をとっても楽しみにしていました。互いに貴重な経験なので、積極的にコミュニケーションし、中国と日本の文化の違いなどについて知ることができたらうれしいです。

言葉を使わずに誕生日を当てるゲーム、描いた絵を後ろの人に伝えていく伝言ゲームなど、趣向を凝らしたゲームの数々に、あちこちから楽しそうな声が上がりました。

午後3時から、2年生の体育の授業に参加。全員が一緒に「しっぽ取り」という鬼ごっこラグビーを足したようなスポーツに興じました。どちらの生徒も、目いっぱい走り、目いっぱい歓声を上げ、目いっぱい笑顔を見せていました。

重点中学の生徒たちは午後4時、川高全生徒に見送られながら、次の目的地である川根温泉へと旅立ちました。